

砲台跡を  
日本語&英語で  
ご案内  
ARアプリ  
対応  
For an  
augmented-  
reality  
app in  
English

# 横須賀の 軍事遺産

巡ってみよう

2016年5月から  
はとバスツアーも開催!

便利な

横須賀観光  
イラストマップ付き

日本語 & 英語対応 便利! 砲台跡をARアプリでご案内!

Explore remains of historic artillery batteries with an augmented-reality app!  
スマートフォンやタブレットにダウンロードして利用するアプリを使って、各砲台跡でさまざまな情報をGet。砲座に大砲などが映し出され、まるで、実際にあるように見られるのは、感動ものだ。便利なアプリで砲台跡を120%楽しもう。

ステップ1 「cybARnet」(サイバー・エアーネット)をダウンロード  
Download [cybARnet].  
AppStoreまたはGoogle Playから、無料ARアプリ「cybARnet」を検索し、ダウンロードする。Search for the augmented-reality app [cybARnet] in the App Store or Google Play and download it for free.

ステップ2 AR無料アプリチャンネル「横須賀の軍事遺産」を開く  
Open the free augmented-reality app channel "Yokosuka's Military Heritage."

「cybARnet」を起動する。 Launch [cybARnet].

アプリ接続方法 How to connect using the app

1 QRコードを読み込ませる。 Read this QR code.

2 虫めがねマークをクリックし、検索画面へ。文字入力でもアプリを検索して接続する。「横須賀」、「砲台」、「猿島」、など短い言葉でも、検索できる。Click on the magnifying glass icon. Enter the keywords "Yokosuka," "battery," or "Sarushima" to search and connect with the app.

ステップ3 砲台跡アプリを使ってみよう! Try out the app!

AR音声案内  
この「巡ってみよう」横須賀の軍事遺産のリーフレット内の写真にかざすと、その物件の説明を日本語で読み上げてくれる。

AR English info English

360°動画  
猿島愛のトンネル出入口の三叉路、走水低砲台跡、千代ヶ崎砲台跡の360°を見渡せる動画が楽しめる。

高角砲表示  
各砲台の砲座にかざすと、画面に大砲が出てきて、スケルトンになっているため、大砲といっしょの写真が撮影できる。

AR GPS案内  
このアイコンをタップすれば、360°の方向に向けて、「エアータグ」とよばれる空間認識の情報を、GPS機能を利用して見ることができる。

かざした方向の先にある砲台跡の兵舎や弾薬庫などの物件が表示され、名称をタップすると説明が出てくる

発行/横須賀市公園管理課 ☎046-822-8333 企画・編集・制作/(株)JTBパブリッシング ©JTB Publishing / 横須賀市 2016 ※本誌掲載データは2016年3月末のもので、発行後にデータが変更になる場合があります

## 猿島砲台跡

SARUSHIMA HOHDAIATO



幕末に江戸防衛のため  
台場が造られた猿島

幕末に欧米の艦船が来航するようになり、幕府は江戸湾防衛の必要性を痛感。品川などの沿岸に台場(砲台)を築いた。猿島もそのひとつで弘化4年(1847)に台場を建設。当初は川越藩が防衛を担当した。東京湾要塞の建設は、明治14年(1881)に着工。明治17年(1884)に完成し、24cm加農砲4門、27cm加農砲2門が据えられた。しかし航空機の発達とともに、艦船攻撃を目的とした砲台は旧式となり、関東大震災で施設に大きな被害を受けたことを契機に砲台も廃止された。その後、陸軍から海軍に移管して昭和期に高角砲を設置。横須賀軍港を守る防空砲台として終戦を迎えた。

### 海軍港碑

猿島は明治10年(1877)に海軍の所管となっている。この碑は猿島から夏島まで、海軍が管理する港の範囲を示すもの。横須賀の海が海軍港であることを表している。一辺が約30cmの安山岩製の角柱で、当初は木製だったが明治16年(1883)に石柱に建替えられた。2つに折れており、つなくと約3mの高さになる。

### 兵舎(第一掩蔽部)

第二砲台建設に伴って造られた兵隊の住居。フランス積み(アーチ状のかまぼこ型)で、内側の壁は漆喰塗り。白塗りの壁は当時の少ない照明でも明るさを確保するための工夫だ。

### 第二砲台壘道

明治14~17年に西洋築城の技術を元に造られた。東側(写真右側)の壁の上に24cm加農砲4門が据えられた第二砲台があった。壁面は、フランス積みという石積みで、房州石(凝灰岩)を使用している。壘道に沿って兵舎、弾薬庫などが連なる。

### 猿島の由来・日蓮伝説

安房の国から鎌倉へ布教に行く途中、日蓮上人は突然の嵐で難渋した。この時、白猿が現れこの島へ導いてくれたことから、猿島と名付けられた。さらに白猿から啓示を受けた日蓮は米ヶ浜に上陸。お告げを受けた地元の豪族が日蓮を背負って浜へ降ろす時に、サザエで足を切ってしまった。それを見た日蓮が法華経を唱えると、辺りのサザエには角がなくなると伝わる。

## 愛のトンネル

●あいのとんねる 猿島砲台跡MAP⑤  
全長約90m、幅4m、高さ4.3mの総レンガ造りのトンネル。天井がアーチ状となっていて、レンガは愛知県西尾市にあった東洋組製作のものを使用。フランス積みで造られ、道路用としては日本で一番古いもの。トンネル内の西側には、2階建ての構造で弾薬元庫などが造られ、状態もよく保存されている。

### 弾薬収納室後室

弾薬庫の奥にある部屋。広さは奥行き4m×幅5mほどで、前室と同じ大きさ



### 弾薬庫

レンガ造りで外壁と内壁は兵舎と同様の構造だが、内部は前室と後室の2部屋に分かれている。前室には上部の砲台に砲弾を上げるための揚弾井(ようだんせい)が造られている。また、入口左側に弾薬庫内の照明を管理するための細い通路(点灯室)がある。

### 展望台広場

標高40mの猿島最高地点。ここには夜間に海を航行する艦船を照らす探照灯を備えた電灯所や司令所(観測所)があった。現在立っているコンクリート製の施設は、太平洋戦争中の防空指揮所といわれる。晴れた日には富士山も望める。

### 12.7cm高角砲砲座

太平洋戦争の終わりに来襲したB-29爆撃機に対抗するために急ぎ建設された。急ぎで作ったため海岸の砂を利用したらしく、コンクリートに多数の貝殻が混じっている。2連装の高角砲が据えられた砲座が2カ所あった。

## 走水低砲台跡

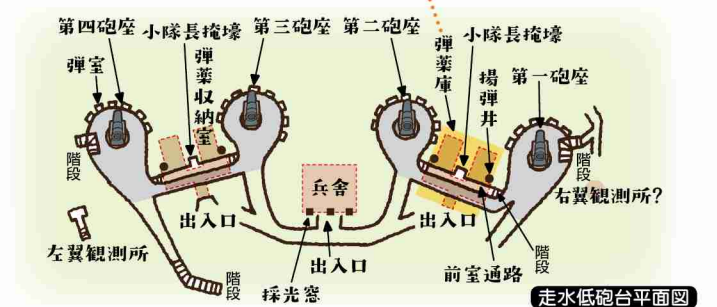
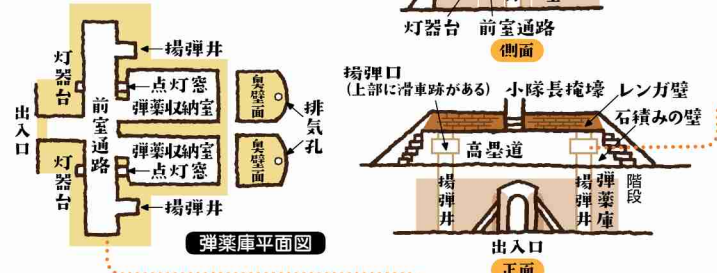
HASHIRIMIZU TEIHOHDAIATO

重要視された走水の砲台

走水周辺は東京湾が最も狭まる場所に位置し、幕末にも台場が築かれるなど、東京湾防衛のための重要な地点だった。明治政府も早くからこの地に砲台建設を計画。観音崎、猿島に続いて走水低砲台建設に着手した。明治18年(1885)に着工し、1年後の明治19年(1886)に竣工。27cm加農砲4門が据え付けられた。しかし危機が迫っていた日清、日露戦争とも敵と交戦することなく戦争が終了。関東大震災で被害を受け、その後、復旧したが、昭和9年(1934)に陸軍施設から降格されている。その後も備砲されており、終戦までは可動状態にあったためか、遺構が現在も残されている。

### 弾薬庫

弾薬庫の入口は、兵舎を中央にして左右に2カ所ある。木々に覆われた写真・弾薬庫外観の入口は、右翼(第一、第二砲台側)の弾薬庫のもの。戦後70年以上経ち、頭上を樹々の緑がふさいでいる。入口を入ると、手前に左右に細長い前室通路(交通路)。その奥が2部屋に分かれていて、それぞれひとつの砲座を担当。砲台ごとに専用の弾薬収納室があり、前室の左右の奥には、砲弾を上部の砲台に上げるための揚弾井がある。



### 兵舎(掩蔽部)

砲台中央部の横壁(おうしょう・防護壁)の土盛り、防護壁)地下に造られた兵士の居住室。明治時代は照明が貧弱だったため、出入口の両脇に採光用の窓が2つある。内部は単純な長方形の部屋で天井はヴォールト構造、壁面はレンガに漆喰塗り。

### 第四砲座

砲座は標高約20mの丘にある。ここに北東方向に向けて27cm加農砲が据えられていた。胸壁(きょうしょう・防護壁)に囲まれた砲座間には、高い横壁があり、その地下に弾薬庫・兵舎(掩蔽部)など造られている。

### 左翼観測所

砲台の両端の横壁の上には、観測所が設置されていた。写真は左翼に残された観測所。右翼にも存在したようだが、現在は確認できていない。レンガ造りの太いT字型をした塔で、敵艦船との距離や方角を観測していた。

### 小隊長掩壕

砲座間にある高い横壁には、上部の高塁道へ上る石段があり、高塁道中央部に小隊長掩壕が造られている。ちょうど大人が一人入る広さで、肩ほどの深さがあり、保存状態は良好。小隊長壕は2つの砲座間にひとつずつ2カ所ある。

## 日本武尊と弟橘媛命

走水は古事記・日本書紀に地名の由来が登場する伝説の地。古代の東海道は駿河から足柄峠を越え、鎌倉を経て走水に至り、ここから海路を使って上総国(千葉県)へ通じていた。日本武尊は船で房総半島へ渡ろうとしたが、突然の暴風雨に阻まれ立往生する。この時、同行していた弟橘媛命が荒ぶる海の神を鎮めるために自ら入水すると、直ちに海は風き水の上を走るように進んだことから「走水」とよばれたと伝えられる。日本武尊はわが身を犠牲にして海を鎮めてくれた最愛の妻・弟橘媛命を思ひ、御所ヶ崎に橘神社を建立して祭った。その後遷座した走水神社境内には、東郷平八郎や乃木希典らが発起人となって明治43年(1910)に建てた「弟橘媛命の歌碑」がある。走水神社は、日本武尊が村人に与えた冠を石櫃に納めて土中に埋め、その上に社殿を建立したのが始まりと伝わる古社。

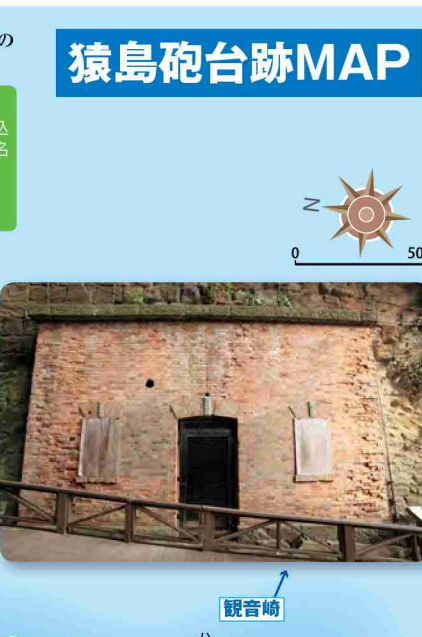




# 首都を防衛した 東京湾要塞

あまり知られていないことだが、かつての日本国領内には陸軍によって建設された26カ所の要塞が存在した。明治13年(1880)に起工した東京湾要塞の一部となる観音崎砲台に始まり、太平洋戦争開戦後に造られた宗谷要塞・北千島要塞など5つの臨時要塞まで、明治から昭和にかけて建設・整備されたものだ。

その最重要地である東京湾要塞は、帝都東京、横須賀軍港などを脅かす海からの攻撃に備えるために建設。日清戦争時は清国の北洋水師(艦隊)、次にロシアの太平洋艦隊の襲撃を想定したものであった。主要な施設は富津岬と観音崎を結ぶ線から夏島にかけて設置された沿岸砲台、3つの海堡からなり、横須賀市に東京湾要塞司令部が置かれていた。艦船に対抗する要塞は日露戦争までに概ね完成したが、兵器や航空機の発達により旧式なものになった。また、関東大震災で壊滅的な被害を受けたこともあり、戦略上不要、あるいは復旧困難な砲台は廃止された。大正期には防衛ラインは城ヶ島と洲崎を結ぶ線まで拡大し、新たな砲台が整備された。太平洋戦争時には、横須賀の防空は海軍が担当して、市内各所に防空砲台を建設し、敵艦の襲来に対抗したが、陸軍の要塞各砲台は実戦で火を噴くことなく終戦を迎えている。



- 予定のコース
- 東京駅 8:00発
  - ↓
  - 浄楽寺 9:30着 (運慶作の仏像拝観)
  - ↓
  - 佐島 10:40着 (シラス工場見学・買物)
  - ↓
  - 佐島昼食 11:30着
  - ↓
  - 走水低砲台跡 13:10着 (専任ガイドが案内) ↓ 徒歩で移動
  - 走水神社 14:10着 (人気パワースポット)
  - ↓
  - 三笠棧橋 15:10着・15:30発 (猿島までクルージング)
  - ↓ 船で10分
  - 猿島砲台跡 15:40着・17:00発 (専門ガイドが案内)
  - ↓ 船で10分三笠棧橋へ
  - よこすかポートマーケット 17:15着 (横須賀の特産品を買い物)
  - ↓
  - 東京駅 19:00頃着

## 横須賀市×はとバス タイアップ企画 走水低砲台跡 & 無人島猿島見学ツアー

明治から昭和にかけて首都・東京を防衛した東京湾要塞。横須賀周辺にはこれらの砲台跡が数多く残されている。今年の5月から、国の史跡に指定されている猿島砲台跡のほか、これまで公開されていなかった走水低砲台跡を巡るはとバスツアーが開催される予定。それぞれの砲台跡を専門ガイドが案内し、普段は入れない兵舎や弾薬庫の内部も見学できる。三浦半島のグルメを堪能し、特産物の買い物もセットになったお得なツアーだ。



※ツアーの行程・内容は変更になる場合があります。  
問合先: はとバス予約センター  
☎03-3761-1100(8~20時)  
※2016年4月15日より受付開始予定となります。

## 走水低砲台跡MAP

各ガイド協会に予約をすれば、普段入れない走水低砲台跡を専門ガイドの案内で見学できる。

- 観音崎公園フィールドレンジャー  
問合先: 観音崎公園パークセンター  
☎046-843-8316(8~18時)
- 猿島公園専門ガイド協会(上記猿島MAP内参照)  
問合先: ☎080-6655-0557(8~18時)
- NPO法人よこすかシティガイド協会  
問合先: ☎046-822-8256  
(9~17時、土・日・祝日を除く)